令和４年１０月２０日（木）前期終業式

好きに勝るものはなし

本日で令和４年度前期が終了します。前期期間中、皆さんは、体育祭や修学旅行などの学校行事や、部活動の大会・コンクールで、集団や個々の成長を実感してきました。また、日々の学校生活でも、生徒会活動や授業にもしっかり取り組み、将来に生きて働く力を蓄えてきました。それぞれの場面で、皆さんの明るく楽しそうな笑顔を見たり、１つ事に夢中になっている姿に出会ったりすることもたくさんありました。きっと、そういうときにこそ、皆さんは自分の力をぐっと伸ばしているのかもしれません。

前期終業式にあたり、ここでは「好きに勝るものはなし」というお話をします。

つい先日、「さかなのこ」という映画を観ました。この映画はお魚博士として有名な「さかなクン」の自伝エッセイから生まれた物語です。テレビやYouTubeで活躍するさかなクンのことは全員が知っているでしょう。２０１０年には絶滅危惧種であったクニマスの生息確認に貢献するなど、その功績が認められ、様々な賞を受賞したり、東京海洋大学の先生を務められたりしています。さかなクンの素晴らしいところは、魚の生態や料理方法に関する豊富な知識だけでなく、一魚一魚に対する愛情にあふれ、純粋な思いで魚の魅力を周りの人に伝えようとしているところなのだと感じています。

映画「さかなのこ」はさかなクンの幼少期のエピソードがまず描かれています。主人公「ミー坊」は、休日に母親に連れて行ってもらう水族館の水槽の前で一日中飽きずに同じ魚を眺めていました。学校でも休み時間は、魚の図鑑を読み、魚の絵を描いていました。魚への純粋な思いは、中学生・高校生になっても変わりません。もっと言えば、魚の知識を生かそうと就職した水族館や寿司屋さんなどの職場で思うようにいかず、現実と理想の間で苦悩している時でも、その思いは変わりませんでした。本当に魚が好きでたまらないのです。現在の「さかなクン」同様、様々な舞台で活躍するようになった映画の中の主人公「ミー坊」は自らの半生を振り返り、「好きに勝るものはなし」と表現をしていました。「好きに勝るものはなし」「好きこそものの上手なれ」など、自分の好きなことなどに一心に取り組む意義を表現する言葉はたくさんあることに改めて気づかされました。

本校にも、一つ事に一心に取り組み、活躍している生徒がたくさんいます。その中の一人が３年生の齋藤さんです。齋藤さんはクラッシックバレエに取り組み、コンクールでも成果を出してきました。１１月の下旬から約半月、ヨーロッパ（ポルトガル）に短期留学を行うということも聞いています。この先、大変なこともあるかもしれません。それでも、クラッシックバレエを好きであり続ける限り、明るい未来が開けてくるのだと思います。

皆さん一人一人にも好きなこと、興味あることがあるはずです。もしなければ、これから出会うかもしれません。前期の間に読んだ本や観た映画、授業で学習したことなどに好きなことや興味の種が潜んでいた可能性もあります。「好きに勝るものはなし」です。

明日からは３日間の秋休みです。気持ちを新たに後期のスタートを迎えましょう。
令和４年度前期終業式の式辞は以上です。

熊谷市立三尻中学校長　　田沼良宣